

白河かるた競技大会規則

白河かるた大会実行委員会

(令和 6 年 12 月 1 日現在)

項 目

1	競技大会規則	3
2	競技進行要領	9
3	審判員の役割	11
4	読み手の役割	12
5	用語の説明	13

競技大会規則

1 競技の形式及び競技者

①競技の形式について

- ・団体戦のみとする。
- ・チームの編成は、3名の競技者によって編成される。競技は、3名の競技者による2チームにより、相対する形により行われる。
- ・大会当日の体調不良や怪我などの理由により、大会に登録した競技者による3名のチーム編成が不可の場合は、1名または2名でも試合に出場することができる。

②競技者について

- ・市内小学校に通学する小学生のみとする。
- ・競技は低学年の部(1～3年生)と高学年の部(4～6年生)で分ける。

2 競技進行の関係者

①進行係

- ・競技を取り仕切る者。競技の開始・中断・再開・終了などを、読み手や審判員と連携しながら競技を進める。

②読み手

- ・読み句を読み上げる者。聞き取りやすいように、はっきりとした声で読み上げる。読むペースに注意する必要がある。

③審判員

- ・競技を公平に判断する者。各コートに1名以上配置する。競技中は、札の位置や競技者の姿勢の指導、反則の判定を行う。競技中、何らかの問題が発生し一時中断する必要がある場合は、進行係と協議してその問題を解決し、競技の再開に努める。競技後は、競技者から報告される得点及び絵札を確認し、得点を記入した【様式 1】「対戦結果表」を記録係に提出する。

④記録係

- ・点数及び勝敗結果を記録する者。競技終了後、審判員から預かった「対戦結果表」を基に、「予選グループ表」または「決勝トーナメント表」に点数と勝敗結果を記入する。

※大会規模の状況により、係の兼務または増設を行っても問題ない。

3 コート及び札の配置と最後の2枚

①コートについて

- ・コートは幅 150cm・縦 90cm とし、中央に幅 3cm の「中央線」を確保する。
- ・中央線を境に、2つの陣に二分される。
- ・コートの境界である、幅 150cm の辺が「仕切り線」となる。(《図1 コートと札の並び》を参照)

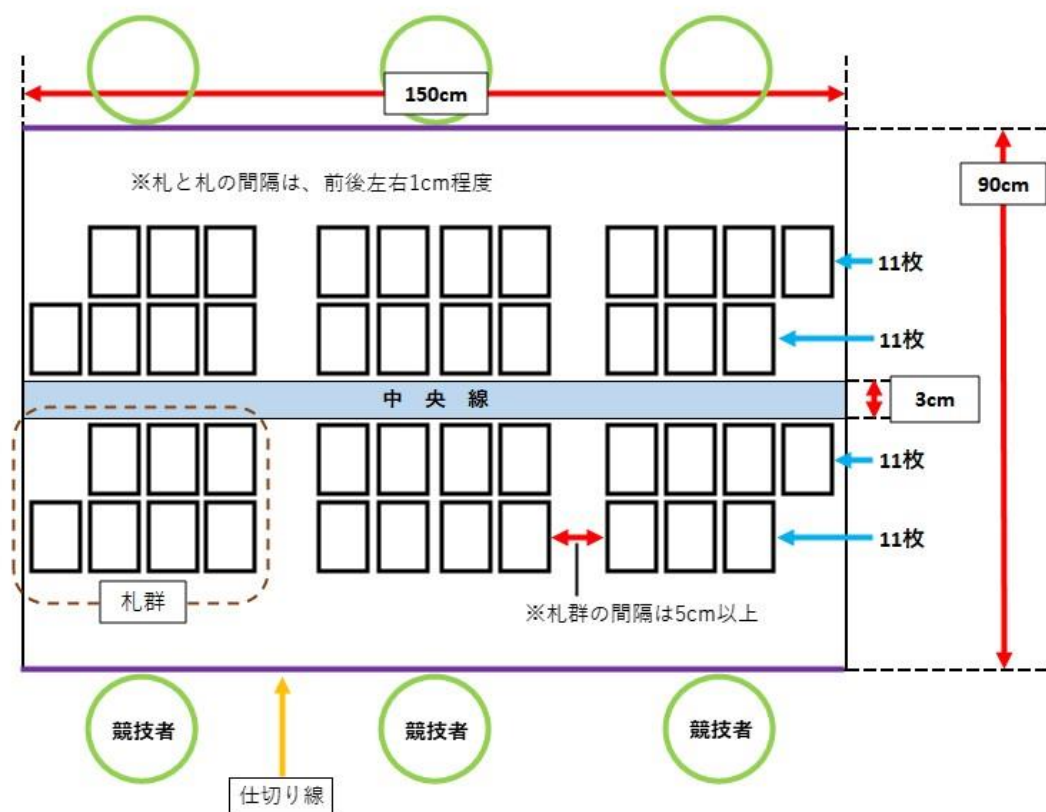
②札の配置について

- ・使用する札の枚数は、44枚とする。
- ・札と札の間隔は、上下・左右とも 1cm 程度離す。自陣の札と相手陣の間隔は、陣の境界から 1.5cm 程度とする。(これにより、両陣の札は境界を挟んで 3cm 程度の間隔が発生する。この間隔が中央線となる)
- ・コートに座る左・中央・右の3名がそれぞれ札群を分担して、自陣のコートに2段になるように並べる。(中央が 8 枚・左右が 7 枚)札群と札群の間は 5cm 程度とする。(《図1 コートと札の並び》を参照)
- ・並び終えた各陣の札の配列は、3名の競技者の横の段がそれぞれ 11 枚になること。

③最後の2枚について

- ・競技の終盤、コート上で残りの札が2枚になったとき、競技を一時中断し、それらの札を中央線上に 30cm の間隔を空けて並べる。なお、自陣から見て左側の札を相手陣に向けること。(《図2 最後の2枚》を参照)

《図1 コートと札の並び》



《図2 最後の2枚》



4 競技者の位置と姿勢

- ・チームのリーダーが中央に座ること。
- ・並べた札の上に、頭がかぶさらないようにする。
- ・札が読まれる前に、体(手・ひじ・ひざ・肩)を仕切り線から札側に乗り出してはいけない。
- ・前項に抵触しない範囲において、体を高くしても、低くしても、尻をかかとから離してもよい。(《図3 競技者の姿勢》を参照)

《図 3 競技者の姿勢》



5 札の取り方

- ・先に札に触れた競技者が取ることが出来る。
- ・両手を使うことは出来ない。常に片方の手で札を取る。
- ・札を取る時は、抑える・はじく・飛ばす・押す・引く のいずれも問わないが、競技の進行や審判員による判定を妨げる取り方は認めない。
- ・相手を牽制・威嚇するために、相手の顔面に手を出してはならない。
- ・最後の 2 枚における札取りは、チームのリーダーが臨むこと。
- ・手が重なった時は、一番下に手を置いている競技者が札を取ることが出来る。
- ・手が同時の場合は、読まれた札が自陣にある側の取り札とする。

6 反則の種類とその処理

①早取り

- ・札が読まれる前に札を取ること。
- ・早取りをした場合、相手の勝ちとなり、持ち札から 1 枚を相手に渡す。なお、早取りした札も相手に渡す。
- ・早取りの場合は、取り直しが出来ない。

②お手つき

- ・札が読まれた後、読まれた札以外の札に手が触れた場合、「お手つき」となる。
- ・お手つきをした競技者は、持ち札から 1 枚を相手に渡す。
- ・お手つきをした競技者の持ち札が無い場合、お手つきは無かったものとする。
- ・自陣の競技者が 2 名以上お手つきをしても、相手に渡す札は 1 枚とする。
- ・両チームの競技者がお手つきをしたら、両チームとも相手に札を渡す必要はない。
- ・読まれた札が取られた後に別の札に触れた場合、お手つきとは認めない。
- ・お手つきの場合は、取り直しが出来る。

③両手取り

- ・両方の手で札を取ること。
- ・取った札と、さらに持ち札から1枚の合計2枚を相手に渡す。持ち札が無い場合は取った札の1枚だけを渡す。

④払い取り

- ・最後の2枚の札を取り合う場合、この2枚の札をなぎ払うような動作で札を取ること。
- ・払い取りをした場合、最後の2枚と持ち札からの1枚の、合計3枚を相手に渡す。

7 競技中の中断

①競技の一時中断

- ・審判員は、競技者の負傷などのアクシデントが発生した場合、白旗を上げ競技を中断する。それを見た進行係は、読み手に中断を伝える。再開の状況が整ったら、白旗を下げる。白旗が下げられたことを確認したら、進行係は読み手に再開を伝える。読み手は直前に取られた札を1回空読みし、それを予告として再開する。
- ・本読み中に白旗が上がった場合は、本読みを中断せず、本読みを読み終わってから一時中断する。白旗が下がったことを確認してから空読みし、次の札に移る。原則として本読み中に中断してはいけない。
- ・空読み中に白旗が上がった場合は、空読みを中断する。白旗が下がったことを確認してから空読みを読み直し、次の札に移る。
- ・競技の中断などの事由により、本読みと空読みの間に札を取ることが出来なかった場合、その札は審判預かりとする。

②競技者の退場

- ・競技中の態度やマナーが悪いと審判員より繰り返し注意を受けているにも関わらず、なお改められない時には、競技者の退場もありうる。

③競技の続行不可能

- ・競技中に自分のチームの競技者が負傷その他競技中の事故や審判員による退場命令により離脱し、競技の続行が不可能となった場合、没収競技とみなし、もう一方の側の勝利とする。

8 得点の計算

- ・札は、1枚1点として数える。
- ・同点の場合は、代表句である「み」の札を持っている側が勝ちとなる。
- ・次の役札を揃えれば加点される。

○3 史跡「こ」「し」「ま」・・・3 枚揃うと 10 点加算

○3 地域「き」「そ」「ひ」・・・3 枚揃うと 10 点加算

※なお、役札が全て揃わない場合は 1 枚 1 点で数える。

※計算の例 (28 枚獲得した場合)				
取った枚数	〔うち役札の枚数〕	+	役札の加算	= 総得点
28	3(こしま)	+	10	= 38

9 競技上の注意

- ・ 競技は礼に始まり、礼に終わるものとする。
- ・ 大声を出したり、粗暴な行為をすることにより、相手を牽制または威圧もしくは妨害することは絶対にしてはいけない。特にこの行為に関して、審判の再三の注意に応じない時には失格もありうる。
- ・ 競技上の抗議権は、当該競技に出場している競技者のみが持つものとする。
- ・ 競技者が競技上の抗議を行う時は、審判員を通じ意見を述べ、一度下された審判員の裁定には従うこと。
- ・ 競技者の抗議権は、次の読み札の第一音の発声と同時に消滅するものとする。
- ・ 競技者の競技中の態度やマナーが悪いとして審判員より再三の注意があった後、なお改まらない時には競技者の退場、競技そのものの没収もありうるものとする。
- ・ 競技者は競技にあたり、迷い札を出さないように注意しなければならない。(迷い札は審判預かりとなる)
- ・ 競技中に使用する過大なテーピングは禁止とする。
- ・ 競技者は競技中、すでに獲得した持ち札をコート内に置いてはならない。
- ・ 競技者は事故防止のため、手先及び爪先を清潔かつ安全な状態に保たなければならない。
- ・ 競技者は競技全体の流れに注意を払い、これを妨げることなく、競技がスムーズに進行するよう努めなければならない。
- ・ 大会途中で棄権したチームは、対戦中の競技及び前後の競技を含め、大会に欠場したものとして処理する。

競技進行要領

- ①各審判員は、所定のコートに着席後、用具の確認をする。
- ②進行係の合図で競技者は所定の位置に座る。なお、中央に座るのはチームのリーダーとする。
- ③審判員は、両チームの準備が整ったら、「対戦結果表」に必要事項を記入する。
- ④進行係の挨拶の合図で、競技者と審判員は互いに挨拶をする。
- ⑤リーダーは、挨拶が終わったら互いにジャンケンをし、勝った側が札を裏返したままシャッフルし、裏返した状態で22枚ずつの2つの山に分け、それを裏返した状態でコートの中央線上に置く。
- ⑥ジャンケンで負けた側が先に、どちらか一方の山を選ぶ。勝った側が残りの山を取る。
- ⑦リーダーは札を裏返したまま札を数え、過不足ある場合は、札を裏返したまま相手チームに渡す。札の確認が終わったら、裏返しのまま札の山をリーダーのひざ元に置き、静止状態に入る。
- ⑧競技者が静止状態に入ったことを確認したら、審判員は白旗を上げる。これにより、競技の開始が可能であることを示す。
- ⑨全てのコートで白旗が上がっていることを確認したら、進行係は「並べて下さい」と合図し、競技者は札を並べ始める。「並べて下さい」の合図から2分後、進行係は1分前のコールをする。1分前のコール後は、競技者は札を動かすことが出来ない。
※この時、審判員は札並べの補助をしてもいいが、競技者が札を並べ終わったら、審判員も札に触れてはならない。審判員が札並べの補助を出来るのは、競技者が札を並べている間だけとする。
- ⑩進行係は、「並べて下さい」の合図から2分50秒経過したら、「10秒前」のコールをする。
- ⑪3分経過後、読み手は代表句「み」を空札として2回読み上げる。次の札の「本読み」から札を取り始める。
- ⑫競技が進行し、札が最後の2枚になった時、審判員は白旗を掲げ競技を一時中断する。審判員は2枚の札を30cmの間隔を空け、中央線上に並べ直す。なお、並べられた2枚のうち、自陣から見て左側の札を相手陣側に向けること。札を並べ終えたら、審判員は白旗を下げ、競技再開が可能であることを進行係に示す。
- ⑬全てのコートで白旗が下げられたことを確認したら、進行係は「再開します」のコールをする。その後、読み手は直前に読んだ札(42枚目)を1回読む。その後に読む本読み(43枚目)で、競技者は札を取る。43枚目の札を取った競技者は、同時に44枚目の札を取ることが出来る。
- ⑭最後の札を取り終わったら、審判員はリーダーに得点を計算させる。各チームのリーダーは得点を審判員に伝え、審判員はこれを基に「対戦結果表」を記入する。審判員が記

入した得点などの内容に問題が無ければ、リーダーは「対戦結果表」にサインをする。

⑮記録係は順次、審判員から記入済みの「対戦結果表」を集める。

⑯競技者はかるたを揃えて審判員に返却し、姿勢を整え、退場を待つ。

⑰「対戦結果表」が回収されたコートの審判係は、「これで第○試合を終了します。お互いに挨拶して下さい」と合図し、競技者・審判員でお互いに挨拶をしたのち、コートを退場する。

⑱記録係は、上記⑯⑰の間に「予選グループ表」または「決勝トーナメント表」に勝敗と点数を記入する。

⑲進行係による「次の試合のチームは入場して下さい」の合図で、次の試合に出場する競技者はコートに移動する。

審判員の役割

- ・ 審判は、常に公平に判断を下すよう意識すること。万が一、判断に苦慮する場合は、速やかに進行係に合図し、両者で連携した上で速やかに問題を解決すること。
- ・ 競技中は、始めに並べた札の位置を変えてはならない。
- ・ 競技中に札が動いた場合は、速やかに元の位置に戻すこと。戻す際は、両チームに声をかけ、元の位置に戻ったか相互に確認すること。
- ・ 札が読まれるまでは、仕切り線から競技者の手やひじ、ひざ、肩が出ていないか確認すること。
- ・ 札を取る際は、両手を使用したり、札の上に覆いかぶさっていないか確認すること。
- ・ 審判員は、お手つきなどの反則行為を見落とさないよう、競技中は札と競技者の手の動きを注意深く観察すること。
- ・ お手つきの処理や乱れた札の並べ替えは、出来る限り空読みの最中に完了すること。空読みの最中にそれらの処理が終わらないと判断した場合は、躊躇なく白旗を上げ、競技を中断すること。本読み中の中断は極力避けなければならない。

読み手の役割

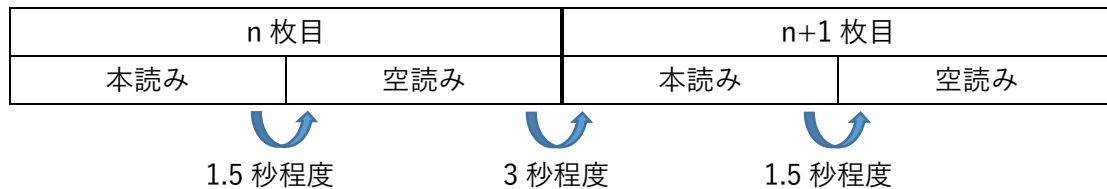
- ・読み手は、常に一定のリズムで読むように心がけること。
- ・各読み札の第一声に特に注意を払い、競技者にはっきりと聞きとれるような発音で読むこと。
- ・紛らわしく聞き取りにくい読み札(「ぬ」・「る」などの札)については特に注意すること。

※本読みから空読みまでの間隔は、1.5 秒程度とすること

※本読みは声量を大きくして読むが、空読みの声量は小さくすること。

※次の札への間隔は 3 秒程度で、競技場の状況で加減する。

【読む間隔】



【声の大きさ】

n 枚目		n+1 枚目	
本読み	空読み	本読み	空読み
声量《大》	声量《小》	声量《大》	声量《小》

用語の説明

- チーム・・・競技者のグループのこと。原則３名で１チームとなる。
- リーダー・・・チームの代表者のこと。コート中央に座る。
- 競技者・・・競技するプレイヤーのこと。
- 中断・・・試合途中で、競技者の負傷など何らかの理由により競技が中断すること。状況が整えば再開する。また、最後の２枚になったとき、札を並べ直す為の一時的な競技の中止も中断という。
- 失格・・・競技者及びチームが、負傷や事故、退場その他の理由により、競技資格を失うこと。また、遅刻などの理由で競技開始の時間に遅れることも失格とする。
- 没収試合・・・競技中の競技者の失格などを理由として、競技途中で終了した試合のこと。

【競技者の身体部位】

- 頭部先端・・・審判員から見て、相手競技者に最も近い頭の部位のこと。横(審判員)から見ることが正確となる。
- 手・・・手のひら全体のこと。
- 指先・・・人差し指・中指・薬指の３本の指の、おおよそ第１関節から先端の部位のこと。
- ひじ・・・審判員から見て、仕切り線に最も近いひじの部位のこと。
- ひざ・・・審判員から見て、仕切り線に最も近いひざの部位のこと。
- 肩・・・審判員から見て、仕切り線に最も近い肩の部位のこと。

【札とその取り方】

- 読み札・・・競技中に、読み手が読み上げる札のこと。
- 取り札・・・競技中に、競技者が取りあう札のこと。
- 持ち札・・・競技中に、競技者自身が獲得した取り札のこと。
- 迷い札・・・競技中に、札がコートの外にまぎれるなどした結果、札が読まれても取るべき札が無かったことにより、勝負不成立となった札のこと。この場合、迷い札は審判預かりとなる。
- 札 群・・・競技者が自陣の中で受け持つ、札のまとまりのこと。団体戦だと中央の競技者が８枚、左右の競技者が７枚となる。
- 空 札・・・競技開始時に最初に読み上げる読み札のこと。代表句の札「み」を２回読み上げる。なお、空札として読んだ「み」の札は取ることが出来ない。

○代表句・・・「み」の札のこと。両チームが同点の場合、代表句の札を保有しているチームが勝ちとなる。

○役 札・・・「こ」「し」「ま」「き」「そ」「ひ」の6つの札のこと。

「こ」「し」「ま」の3つは3史跡を表す札であり、「き」「そ」「ひ」は3地域を表す札である。「こ」「し」「ま」を3枚揃えて獲得すると、10点が加算される。同様に「き」「そ」「ひ」を3枚揃えて獲得すると、10点が加算される。